

「落ちこぼれ」がくれた私の夢

私が教員を目指すきっかけになったのは、高校生の時の部活の顧問の先生です。その先生はバスケットボールが専門でした。バレーボールのルールも、知識も何も知らない先生と、高校バレーのスタートでした。

私が2年生の時、バレーボール部主将として、仲間の気持ちを上手く汲み取れず、どんどん離れていく仲間を追いかけることも出来ず、ただ立ち止まって泣いていた私に、ある詩をくださいました。

茨木のり子さんの「落ちこぼれ」。「立ち止まっている優に詩を渡そう。でも、タイトルに傷つかないで欲しい。タイミングが悪いけど、今の優にぴったりだよ。」と、苦笑いしながら渡されて、更に泣いたのを覚えています。当時は、心がいっぱいになっていたこともあり、その後、先生が何と言ったのか、はっきりと覚えていません。

しかし、その詩をもらってからは、これまで以上にだれよりも努力して、最後の総体を迎えました。「勝ち残りしたい!」「せめてもの恩返しだ!」と全員でボールを繋げて、一点を追い続けました。結果はベスト16を懸けた試合で負けてしまい、勝ち上がることが出来ませんでした。悔しい結果でしたが、一点を取る度に、先生と喜び合ったのを今でも覚えています。その時から、私の夢は「先生と同じ道を歩みたい。」という目標になりました。

私が卒業のときに「勝たせることが出来なくてごめん。先生になって会おうな。」という言葉が印象的でした。先生の努力も私の努力も、卒業式の日に分かち合えた瞬間だったと思います。

「小学校の先生になって、また先生に会いに行きます。それまで待っていてください。」と約束してから先生には連絡をとっていません。教員採用試験を受ける今年、あと少しで夢が叶うと思うと、楽しみでしかたがありません。次は、私が先生のように、子どもたちのために何かを伝えられるような先生になれるように努力したいです。

中別府 優
(大学生)